

高齢者の医療費は急増している

70歳以上の高齢者の医療費は、年々増加しています。70歳以下の国民の医療費はほぼ横ばいなので、国全体の年平均5,500億円の増加額は、この高齢者医療費の増加が原因となっています。平成21年度では、70歳以上高齢者の医療費は国全体の医療費の46%とほぼ半分を占めるまでになりました。

70歳以上高齢者の医療費の増加を、人口数と関連させて考察を試みた所、著しい相関関係が見えてきました。平成13年から21年度の8年間に医療費の増加率は33%であり、70歳以上人口の増加率はこれとほぼ同じ32%でした。現在の医療レベルや支給を基礎にすると、今後の医療費の増加額は、70歳以上人口の増加にほぼ平行して増えることとなります。

例えば、10年後の平成31年には70歳以上人口は74%増加するので、その医療費は約20兆円で21年度より4.5兆円の増加となり、国全体の医療費もほぼ同額の増加となります。こうした医療費の急激な増加を国民がどう負担して行くか、財源の問題が大きな課題となっています。

